



立教大学校友会
横浜立教会会報
70周年記念誌

発行人:大橋 英五
編集人:楠本 健司

2021JUNE

横浜立教会発行



横浜浮世絵：横浜波止場ヨリ海岸通異人館之真図

広重(三代)1870年

丹波コレクション（神奈川県立歴史博物館蔵）より

丹波恒夫（1881年～1971年）山形県酒田市出身

1908年立教大学(立教専修学校)卒

渡米、6年後帰国、横浜で丹波商会設立

コレクションは6000点以上、丹波氏の美術志向は
浮世絵のみならず県内の美術芸術に受け継がれている



70周年を迎えた横浜立教会 — 更なる校友の輪を

立教大学は、2024年に創立150周年を迎えますが、立教大学校友会は、卒業生相互の親睦を図り、大学の発展に寄与することを目的に、明治40年(1907年)に成立し、昭和14年(1939年)立教大学同窓会として独立いたしました。

そして昭和35年(1960年)立教大学校友会と改称し、立教大学全卒業生、修了者をもって組織・構成され、現在校友は20万名を超えて、社会の各方面で活躍しております。

横浜立教会は、立教大学校友会の神奈川県横浜地区の地域立教会として、戦後すぐ、昭和20年代初頭に横浜在住の有志により設立されました。当時、進駐軍に接収されていたゲーリック球場(旧平和球場、現横浜スタジアム)で、昭和23年(1948年)7月9日、立教大学対慶應義塾大学の野球のナイトゲームが開催されました。初めてのナイトゲームで、入場者2万余名と大入りでした。

この試合を企画したのが横浜立教会初代会長、下田理一氏(昭和13年経済学部商学科卒・前金港スポーツ社長・山手聖公会)でした。この試合の応援に駆け付けた立教卒業生が中心となって横浜立教会が発足したと言われています。



近年の主な活動としては、定例総会の「交流の集い」に合わせて著名人を講師に招いた市民講演会の開催、ファミリークリスマス会、歩こう会をはじめとした各種クラブ活動、若手会員を中心とした青年部会活動、県内の地域立教会が持ち回りで開催する「神奈川県校友の集い」等に取り組んできました。現在、横浜在住の校友は8千名を超え、地域立教会としては、最大級の校友を擁する組織になっております。しかし、横浜は広域なこともあります。横浜立教会の周知や会員同士のつながりも十分とは言えず、会員数はまだまだ少ない現状です。今、コロナ禍による自粛生活が続いているが、校友活動の原点に改めて思いを致し、70周年をきっかけに、更なる校友の輪を広げていくことを目指してまいります。

会員の皆さまのご支援と協力をぜひお願いいたします。



ご挨拶 横浜立教会70周年に当たって

横浜立教会 会長（元立教大学総長）

大橋 英五

横浜立教会が設立70年をむかえることになりました。また立教の池袋キャンパスは開設100年をむかえ、このあと立教設立150周年をむかえることになります。

横浜立教会の70年、また池袋キャンパスの100年、さらに立教設立150周年は、日本の社会の激動の時期でした。100年前の日本の社会は、欧米諸国に追いつくために急速に近代化が進められ、その後も第2次世界大戦前後の混乱の時期とに直面してきました。

この間、卒業生は時代はちがっても、同じ立教大学で、同じキャンパスで過ごしてきました。時期はちがっても、同じ場所、同じキャンパス、同じ学舎で過ごすということは、そこでの出来事を時をこえて共有することになります。立教での教育のあり方、文化を共有しています。学びの学舎で起こった楽しい事も、大変な事も100年あまりにわたって、自分たちのものにしてきたのです。立教での人を思いやる優しい心、誠実に生きることの大切さといった教えのなかで過ごしてきたのです。こうした歴史の共有は、池袋の街、新座の街、また横浜の街についても、同じことが起こっているでしょう。私たちは、これからも横浜立教会のメンバー1人1人が、互いに立教の文化を共有し、今後ともさらに発展して行きましょう。



横浜立教会創立70周年に寄せて

横浜立教会 幹事長 70周年記念事業実行委員長

島崎尚己

この度は横浜立教会発足70周年誠におめでとうございます。

横浜立教会は昭和20年代に横浜在住の有志により設立されました。数ある立教大学校友会の中でも伝統のある組織であり、近年は若年層の会員の入会も増え、アットホームな雰囲気の中で各種活動を積極的に展開しております。

残念ながらコロナ禍の影響で、皆が楽しみにしていました本年の記念行事は開催を見送りました。今後は2024年の大学創立150周年に合わせて「75周年の集い」を盛大に開催できるよう準備を進めていく所存です。70余年の歴史を踏まえつつ国際都市横浜のオープンマインドで和やかな雰囲気を持つ私達横浜立教会は、更なる発展を目指して多くの新会員のご参加をお待ちしております。

今後の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。





祝辞

立教大学 総長 西原 康太

横浜立教会、設立 70 周年、誠におめでとうございます。

常日頃、立教大学をさまざまな形でご支援くださっていることに、心から感謝申し上げます。横浜在住の校友は 8,000 名を超え、地域立教会の中でも最大の校友を持つ組織です。

1948 年に、立教と慶應の野球ナイトゲームがグーリック球場（現在の横浜スタジアム）で開催され、この試合を企画されたのが、後に初代横浜立教会会長となられる下田理一さんで、応援に駆けつけた立教卒業生たちが中心となって横浜立教会が生まれたと伺いました。現在の会長さんは、私も大変お世話になりました元大学総長の大橋英五先生。これほどの素晴らしい布陣はありません。

若い会員のみなさんを中心に青年部会も作られて、積極的に魅力あるプログラムも提供されておられます。

初代会長の下田さんも、山手聖公会の熱心な信徒さんでしたが、日本聖公会のルーツの一つは、米国からペリーが黒船で横浜に来航した際、ある若い水平がマストから落下して亡くなり、今の山手聖公会の近くのお寺の境内で、米国聖公会の祈祷書を用いて日本で最初の聖公会礼拝式による葬送式が行われたことがあります。そういう意味では、「横浜」という地は、私たち立教大学にとっての原点でもあるのです。これからも、ますます横浜立教会の働きと交わりが発展されることを祈念しますと同時に、立教大学を引き続きお支えくださることをお願いする次第です。



祝辞

立教大学 校友会長

和田 成史

このたびは、横浜立教会におかれまして設立 70 周年を迎られまこと、誠におめでとうございます。70 年という長きにわたってバトンをつなぎ続けられたのは、横浜立教会代々の役員の方々をはじめ、会員の皆様の熱い志に支えられたからに他なりません。校友会を代表いたしまして心よりお慶び申し上げます。

横浜という洗練された地で、多くの会員の皆様とともに歩まれた横浜立教会の歴史は、校友会にとってもかけがえのない財産です。これからもぜひお力添えをいただければ幸いです。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大により校友会本部としても例年どおりの活動がかないませんでしたが、オンライン配信や SNS による情報発信強化など、できうる限りの工夫を行いました。本年度は、校友会本部をいたしましても各地域立教会の皆様とより連携を強化し、ともに立教を盛り立てていければと考えております。時代とともに交流の場や情報発信の形も徐々に変わりつつありますが、母校愛だけはぜひ変わらぬ形で持ち続けていただければと思います。

横浜立教会におかれましては、この 70 周年を節目として、今後またさらなる飛躍に向けて発展されることを祈念いたしております。引き続き立教大学ならびに立教大学校友会へのご理解、ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

改めましてこのたびは横浜立教会 70 周年記念誠におめでとうございます。



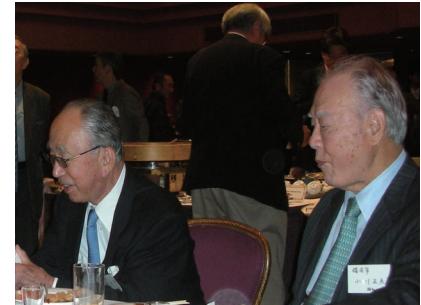
会員の声・思い出

(順不同)

横浜立教会 70 周年を記念して 小川 正夫 昭和 32 年 経済学部経営学科卒

私が入会当時は「立教大学横浜会」の名称で、下田会長（金港スポーツ社長）のもと 85 名程のメンバーだったと記憶しています。野球部の集まりだったと聞いておりました。それ以前のことは、入会後にこの会が、明治時代の卒業生で貿易会社の丹波様が仲間を集め英語劇を始めたのが会の始まりと伺いびっくりしました。私が入会以前のことは、その程度しか分かりません。しかし多くの先輩が育てて下さった会をもっと楽しい会にしようと、奮闘努力をし、みんなで絶えず相談をしつつ年 2 回の集会を試みてきました。初夏のころには講演会と総会を企画し、講師には、黒岩神奈川県知事をはじめ、各界知名人、母校卒業者等にお願いし、また、暮れの、先輩司祭による礼拝に始まるクリスマスパーティーは、年々拡大し、持ち寄りのプレゼント交換や、bingo ゲーム、カラオケ大会、そして会員のお子様に参加いただき、サンタのおじいさんのプレゼントなど多彩な企画がありました。

最近では、若い会員の発案で、現役立教生の各種演奏会も取り入れております。中締めは、会員の応援団経験者による校歌、応援歌そして最後の「フレーフレー立教」で閉会です。今回の 70 周年記念パーティーが「横浜立教会」の更なる発展に拍車がかかるよう役員の皆様にお願いし、また、会員の皆様にも会員拡充にご協力頂きます事をお願いし、(相沢さん) (小川さん) 70 周年記念のご挨拶とします。



出会い

森田 利光 昭和 34 年 文学部英文学科卒

戦後間もない昭和 24 年、立教中学を受験したのが立教との出会いでした。当時は物資不足でわら半紙が貴重品だったのでしょう。入学試験は筆記試験がなく、口頭試問だけで合否が決りました。おかげで運よく合格し、その後ながく立教とのかかわりが続くことになりました。

中学で初めて習う聖書の授業を担当されたチャプレンは最初の授業で黒板に大きな字で「すべて人にせられんと思うことは、人にもまたそのごとくせよ。」という言葉をお書きになりました。今でも私が一番大切にしている聖書の言葉との出会いでした。そして、この聖句は「黄金律」と言ってすべての規律のもとになる大切な教えだということをのちに知り、更に好きになりました。出会いとは不思議なものです。立教との出会い、人との出会い、言葉との出会い。出会いは人の人生に大きな影響を与えます。



(森田さん)

想い出をつづって

飯塚 美栄子 昭和 39 年 文学部英文学科卒

大学時代の想い出といえばやはり体育会ヨット部での日々があります。ただ住いが海に近く、海が好きというあこがれのような気持ちから入部したのですが、初めての夏合宿が終わった時には同期の女性部員は私一人になっていました。それでも退部をしなかったのは心配する両親を説き伏せ、なんとか入った部ですのでやめる訳にはいかないという意地があったのかもしれません。卒業の年には東京オリンピックがあり、微力ながらたずさわる事ができたのも良い想い出です。卒業後も諸先輩・後輩又他大学卒業の方々との交流も続き、それらは年を重ねていくにつれ大切なものとなっています。

そして横浜立教会を知り入会しました。そこでも沢山の同窓生の方々と知り合うことができ、これからも楽しい集いに参加し交流を深めていけたらと思っています。



1964 年東京オリンピックでお手伝い(江ノ島にて)

私が横浜立教会に入会したのは 伊藤 守 昭和49年 社会学部観光学科卒

私が横浜立教会に入会したのは、結婚したばかりの昭和58年くらいだと思います。特に印象に残っているのはクリスマス会です。当時の会長は金港スポーツの下田さんだと記憶しています。会場は横浜東急ホテルが定番で、参加人数はお子さんや家族を含め、200人を超えて、バンドも入り厳かで非常に華やかで賑やかな立教らしいパーティでした。慶應卒の妻にも立教のパワーを思う存分見せつけることができました。

現在私は立教学院創立150周年記念募金委員会の副委員長として、特に2024年に立教が箱根駅伝の本戦への復活を目指す、「立教箱根駅伝2024」事業の実現に向けて寄付金の提供と学友へのお願いに汗を流しています。これも鶴見（一区）で生まれ育ち、現在は戸塚（二区）に住み、経営する会社は大手町（スタート地点）に所在する箱根駅伝との不思議な縁を感じるからです。是非皆さんも、2024年のお正月にはRの文字の櫻が箱根路を駆け抜ける雄姿を見るために、ご協力をお願いいたします。



コロナ禍の中での大学生活 川添 利賢 昭和49年 法学部法学科卒

2020年は、世界中が新型コロナウィルスに覆われ、人間社会の生活様式全体が変容しつつありますが、それは大学生活にも及んでいます。

私は、本年3月まで立教大学の教員をしていましたが、現在の学内状況も多少は聞いておりますので、現在、本学の授業がどのように行われているのか、ほんの一端ですが、ご紹介したいと思います。

立教大学でも、2020年度の春学期は、学生の入構が禁止され、授業は全てオンラインで行われました。秋学期になって、学生の学内施設の利用は可能になりましたが、対面授業は2割以下に留まっており、殆どの授業が未だオンラインで行われています。ただ、オンラインで実施される授業科目についても、学期中に1～2回程度、対面形式で補講を実施したり、学生の研究活動に関するリサーチ・フィールドワーク等を学外で実施したりして、人的接触の補完を図る努力がなされています。また、1年生に対しては、基礎演習・ゼミナール科目を面接授業で実施したり、対面プログラムを開催したりして、キャンパスへの登校機会を増やす工夫が行われています。なお、課外活動も再開されており、それ以外の学友間の交流も戻ってきているものと思われますが、実情は把握しておりません。このように、従来の大学生活の内実を保つ努力は各所で行われていますが、現在の在学生の暮らしには、修学面に限らず、経済面や就職面、さらには人間形成の面でも、様々な困難が生じてきているであろうことは、想像に難くありません。尤も、これは、社会全体に生じている災禍の一環であり、現在を生きる者に等しく与えられた宿命と考えなければならないのかも知れません。しかし、我々OBが立教大学で過ごした掛け替えのない日々を思う時、現在の在学生諸君にも、何とか同じように実りある大学生活を過ごしてもらいたいと願って止みません。厳しい時代の中で、次の世代を担うために奮闘する在学生諸君に心からエールを送りたいと思います。



2020年秋

追記

現在、2021年1月7日に発出された2回目の緊急事態宣言の最中にあります。この緊急事態宣言を受けて、立教大学では、2020年度秋学期に行われていた対面授業の一部をオンラインに切り替えることになりました。

ただ、文部科学省は、全国の大学に、新年度は新型コロナウィルスの感染対策を講じたうえで、対面の授業を行うよう求めています。

これに応じて、立教大学でも、2021年度は対面授業を増やす方針であり、特に、学部新一年生に向けての言語科目必修で対面授業を実施するとともに、その前後の学部専門科目の授業も、対面の方向で実施する予定のようです。学部2年次以上配当の科目や大学院学生の配当科目の中にも、春学期の期間中に、履修生と相談の上で対面授業を数回実施する形で行う科目が対面授業として設けられており、全体として、対面授業が科目数で7割、実質的には5割程度行われることが予定されているようです。それにしても、在学生諸君の大学生活は、なお制約の大きいものであることに変わりなく、彼らに、一日も早く、心置きなく勉学の喜びを享受し、学友との交友を謳歌する日々が来る事を願うばかりです。

2021年春

母校は2度暖かい

鈴木 紀子 平成4年 文学部英米文学科卒

ツタの絡まる校舎、4丁目の木漏れ日、第一食堂、第一応援歌と共に観戦した六大学野球・・・

キラキラ光る甘酸っぱい思い出と共によみがえる特別な居場所。そんな母校が約30年経過して、この横浜という場所で第二の居場所を私に与えてくれている。土地柄、K大学やらK学院やらの卒業生ズラリ・・・という中で、たまに出会う同窓生たち。それだけでアウェイの中家族に会えたような嬉しさで、一気に親しみと心地よさを感じ、時にはハイタッチまでしてしまう不思議なこの感覚。現役時代は微妙にずれていても脈々と流れるセントポール魂、品の良さ（かなりのいいき目）は全員が持ち合わせていてホッとする。

数十年たってから横浜で出会う新たな先輩、後輩、仲間たち。まだ数年しかたっていないのに、長く同じ思い出を共有してきたかのように錯覚するのはあのキャンパスを共有してきているからに違いない。

紫紺の旗を心に刻んでいるからに違いない。これからも仲間はこの横浜で増え続けるのだから楽しみで仕方ない。



横浜立教会について

孫 進明

平成7年 経済学部経済学科卒

私が横浜立教会に入会したきっかけは、別の会で知り合った先輩からのご紹介でした。生まれも育ちも横浜で、しかも立教小学校出身の私は、この会しかないと思い入会いたしました。

良くも悪くも私自身、学校は立教しか知りませんでしたので、立教愛は誰にも負けないつもりでしたが、この横浜立教会で多くの先輩方にお会いし、先輩方の半端ない立教愛を感じ、自分はまだまだだと痛感いたしました。

立教というだけで自然と親近感が沸き、仲間意識が芽生えるのは、立教ならではだと思います。この会が、より多くの立教生が集まり、より多くの立教愛で溢れるような、そんな会になるよう盛り上げていきたいと思っております。



華やかな大学生活が

望月 整

平成15年 観光学部卒

華やかな大学生活が始まると憧れと共に思っていた。ところが入学してみるとサークルもほとんどなく、9・10限が終わり教室の外に出ると真っ暗で学生がほとんどいないキャンパス、というのが当時の新座キャンパスだった。98年に観光学科から観光学部となったばかりで、学部としては2期生ということになる。先輩が1学年上までしかおらず、サークルがなければ自分達で作るしかなく、キャンパスを楽しくしようと思うなら自分達が動かないと何も楽しくならない、という環境だった。だからこそ当時は観光学部の授業でも面白い外部の講師にも多く出来、また新座キャンパスの学園祭「IVY Festa」の運営に当初から携わり、自分たちで0から作り上げる楽しさも知った。

自分達で考える、という当たり前で重要なことを楽しみながら学べたという意味で、あの4年間は貴重な経験が出来たと、当時の友人達とオンライン飲み会で馬鹿話をしながら今でも思えるのだ。



若手会員の交流にむけて

中川 英樹 平成 19 年社会学部産業関係学科卒

この度は横浜立教会発足 70 周年誠におめでとうございます。横浜立教会が今日を迎えるのも偏に、横浜立教会を支えてこられた諸先輩方の努力と母校への情熱の賜物であると思います。

私が横浜立教会に入会したのは、平成 28 年の夏でちょうど長野県から転任してきて一年が過ぎたころでありました。入会した頃の横浜立教会は現・横浜立教会青年部幹事長である孫先輩が横浜の若手をまとめようとしていた頃でありました。

私はこれまで、横浜立教会に入会するまでに近畿立教会や松本セントポールクラブなど、いくつかの立教会に入会していましたが、どこの立教会でも同じ問題を抱えており、それは日本の構造的な問題とも言える問題がありました。つまり、「若手会員が少ない」、または「いない」、という問題でした。そして共通しているのは、若手の会員がいないという現状に対して中々有効な手立てが打ち出せてなかったというのが実情がありました。

しかし、横浜立教会で出会った孫先輩を始めとする諸先輩方は違いました。立教会に集まつた数少ない若手一人ひとりに丁寧に声をかけ、若手に少しでも横浜立教会に興味を持ってもらうおうと情熱をもっておられました。その効果があつてか、横浜立教会の若手の人数は次第に増え、ついには 50 名を超える規模までに拡大をしました。これも、若手会員の拡大に尽力をされた孫幹事長始めとする、諸先輩方の功績であり、十分なサポートをして下さった、上原元幹事長のお力であると思います。

まだまだ、会員の定着には課題は山積みですが、どこの立教会においても課題であり、且つどこの立教会でも成し得なかつた、これほどの若手会員の拡大は、近年稀に見る現象であり、まさに奇跡であると言わざを得ません。

直近は残念ながら新型コロナウイルス感染拡大の影響でこの一年の間は横浜立教会の集まりやイベントはほとんどが出来ない状況が続き、中々思うような活動が出来ませんでしたが、現在のような横浜立教会であれば、今後も未来永劫発展していくことは確実であると思います。私自身、これほど立教大学出身であることを誇りに思えたことはありませんでした、これも横浜立教会に入会し、孫青年部幹事長、上原元幹事長を始めとした諸先輩諸方のご指導などがあったおかげであると考えております。横浜立教会に入会して本当に良かったと感じております。



祝横浜立教会 70 周年

黒須 陽一郎 平成 2 年 社会学部産業関係学科卒

卒業してから、ちょうど 30 年が経過致しました。学生時代は池袋キャンパスと新座の野球部智徳寮を憊ただしく往復。当時、午前中は原則授業に出席することを前提として、午後から練習という毎日を繰り返しておりました。今思えば平凡な日常でしたが、4 年間繰り返し継続したことは、非凡だったのかなと少し自信を感じております。また、社会人として最低限の綻は学べたようです。

人生 100 年時代と言われ、四季に例えれば、25 歳までが「春」、50 歳までが「夏」、75 歳までが「秋」、100 歳までを「冬」とすれば、私の場合はちょうど「秋」を迎えます。但し、「実りの秋」を迎える否かは、春から夏の種まきや地ならし次第だとすれば、少々不安もありますが、これからも相変わらずにフェアプレイ（綻のひとつ）でやってまいります。



むかし自慢

内野 雅史 昭和 32 年 経済学部経済学科卒
(立教大学硬式野球部在籍 4 年間)



人の記憶も歳月を経ると薄れがちであるが、節目節目の強烈な出来事は忘れ難いものであり、その人の中に大きな影響を与えるものである。

私の青春時代の節目は、野球に明け暮れた時代で多くの知己を得た時期が重なる。横浜市の中学時代の市内大会での優勝、県大会の準優勝、希望ヶ丘高校では公式戦初打席初安打(入学式前に出場)、一年時、夏の甲子園予選県大会初打席初ホームラン、二年時、神奈川県での初優勝、甲子園出場初打席初ホームラン、立教大学に進学、東京大学リーグ戦初打席初安打(三年時)等々、初陣の節目の思い出が多い。大学卒業、日本通運入社、社会人野球全国大会初出場でいきなり準優勝、アマチュア野球での 15 年間、夫々のレベルで選手冥利につくる貴重な経験を得た。「初」に奇縁を後になって感じた。

中でも希望ヶ丘高校二年時(昭和 26 年 8 月)前述の甲子園出場は 70 年を経た現在も身震いするくらいの出来事であったし鮮烈な記憶としてある。優勝という感激はそこに至る苦しみを教えてくれたし、極度の興奮と緊張は「これが甲子園」・・・と後から思う所以。幸いにして打てたホームランも集中力の所産であるが、この初打席はドキドキ、膝はガクガク状態。監督、ベンチ、応援団も念頭になく眼中にもなく、ただ「白球」一個が見えていたように記憶している。

実際、甲子園独特の雰囲気は聞きしに勝るものがあり身も竦む思いであった。入場式で他校の選手に接し、常連校の威風堂々、ましてや各選手の風貌、体躯に驚いた。「とてもかなわない」「凄い」が実感、我がチーム全員の素直な所感ではなかつたかなという感じ。試合は 1 回戦で敗退。常連の優勝候補(平安高校、この大会の優勝校)を相手に実に堂々と互角に対戦できたり、相手の心胆を寒からしめた 1 回表の大会第 1 号ツーランホームランであった。また、この大会に合わせた甲子園名物銀傘の復元(元は鉄傘であったが太平洋戦争の鉄不足による供出)で、甲子園球場から記念としてホームラン賞の贈与が施行された。

試合終了後、アナウンスによりホームベースで球審より授与された。高校野球では例のないことで驚いた。後日判明した結果、授与されたのは小生のみであったことを知り(大会中数本出たと記憶している)、驚きが数倍に変わった。球聖、ベーブルースをブロンズでかたどった円形のズシリとした盾で「今」家宝として日々顔をあわせている。

甲子園はその後の野球生活、人生に大きなインパクトと自信を与えてくれたことは言うまでもない。丁度その頃、朝鮮戦争のさなかであり、日米安保条約など激動の時代背景の中でよい環境とよい仲間に恵まれ野球が出来たこと、青春時代の強烈な思い出が残せた事は何者にも代え難い財産であった。つくづく思う「今」である。

「常に初心にかえりベストを尽くすこと」「常に緊張して物事に対峙すること」「結果は不断の努力の成果である」。以上甲子園の諸々は人生の指標として「今」に至っている。後期高齢の「今」(何時何処で何が)なにも予測できません。現実は 86 歳の「今」です。手前みそみたいな話で恐縮です。むかし話をしました。

最後になりました。横浜立教会創立 70 周年おめでとございます。古参になりました。益々のご発展を祈念申し上げます。

(記: 内野様は 2021 年 2 月 10 日に闘病中のところ、ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。)



クラブ活動紹介

「歩こう会」のあゆみ

「歩こう会」は 諸先輩の活動を引き継ぎ、2005年（平成17年）平柳会長と望月幹事長の肝いりで、森田歩こう会会長のもと「Yokohama St Paul's歩こう会」と称してスタートした（のではないか？）と記憶しています。

第1回目の「山手西洋館巡り」は会報で会員に参加を呼びかけるだけでなく、神奈川新聞で広く一般の市民の方々も募集し、シティガイドの案内で山手西洋館を巡り、山手234番館で講演会も開催しました。その後は、各自お弁当持参でボランティア付き鎌倉散策、神奈川宿、本牧三溪園、Y150記念の関内周辺巡りと海のエジプト展、清里1泊バス旅行、はとバスで「スカイツリーと浅草てんぷら」、立教志木見学、横浜ベイサイドラインでランドマーク最上階での一杯付き夜景バスツアーや、東京水辺ライン・カワセミで日本橋川・神田川巡り、箱根の美の殿堂で伊藤若冲展と宮ノ下富士屋ホテル、皇居と千鳥ヶ淵の観桜とパレスホテルのアフタヌーンティー、横浜能楽堂、浅草寺「伝法院庭園」、崎陽軒工場見学、豊洲市場と浜離宮恩賜公園、キリンビール工場見学と「歩こう会」を開催し、昨年2019年（令和元年）12月の「世界のクリスマス」と横浜山手散策は第21回目となりました。

会員の方ばかりでなく、ご家族、お友達の方々にもご参加いただき、また諸先輩のご支援とご協力のおかげで およそ15年間このように活動を続けることができました。誠にありがとうございました。これからも、話題の場所を探して、「一人ではなかなか行けないけれど、機会があれば行ってみたいな…」みたいな「歩こう会」を続けていければと思っています。

（担当幹事：矢島和代）



ぶらり博物館・美術館のご案内

横浜市内を中心に県内には多くの博物館や美術館がありますが、良い展示があっても行く機会を逸することが多いでしょう。

そこで当会では、企画展を中心に学芸員の解説ができるだけ聞くようにして、博物館や美術館を訪れています。

これまで、「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」(県立歴史博物館)、「浮世絵でめぐる横浜の名所」(横浜開港資料館)、「原三溪の美術—伝説の大コレクション」(横浜美術館)等を鑑賞しています。

歴史やアートにふれることで少しでも生活を豊かにしていきたいものです。

コロナ禍のなか、今は見学を中断していますが、機会を見て再開をします。定年退職の方、特に参加を歓迎します。

(担当幹事：木村欣照)



ゴルフ会のご案内

ここ数年お休みしていた、ゴルフ会が再開いたしました。

昨年11月飯島幹事の肝いりで、房総カントリー房総ゴルフ場でゴルフコンペが開催されました。これを機に更なる親睦、広がりを願っております。

当日は、一番スコアが良かった島田さんを除き、最年長の上原さんにみんなやられました。

「喝」。なお、島崎幹事長のご厚意で、「酒の島崎」様より賞品のご協賛をいただきました。

次回のコンペは、横浜立教会ホームページにてお知らせいたします。非会員の立教OG,OBの方々も是非ご参加ください。

(担当幹事：飯島清仁)



この他にも次のようなクラブ活動が行われています。

立教スポーツを応援する会

春・秋の6大学野球やラグビー等を観戦します。観戦後には懇親会が待っています。(担当幹事：中山裕)

グルメの会

市内の名のある料理店や校友の店でグルメを楽しみます。(担当幹事：与儀達夫)

ワインを楽しむ会

おいしいワインと料理を市内のレストランで味わいます。(担当幹事：島崎尚己)

ジャズ・落語を聴く会

野毛にある「横浜にぎわい座」で落語を、市内にあるライブハウスでジャズを気楽に聴きます。

(担当幹事：楠本健司)



立教スポーツを
応援する会

ワインを楽しむ会



ジャズ・落語を聞く会

にぎわい座

グルメの会



青年部会の紹介

青年部会は、2015年に発足した「みなどみらい会」を前身としており、当初は懇親会のほかに各分野の専門家をお招きした勉強会も開催していました。

その後2017年に、横浜にて神奈川県校友の集いが開催されるのを機に、孫青年部会長のもと平成卒のメンバーを中心とした青年部会へと移行しました。青年部会では夏のビアガーデンをはじめ、関内や野毛での懇親会などを企画するほか、他地域立教会との交流も積極的に行ってています。とにかく気軽でアットホームな雰囲気のなか、会員同士が楽しく交流できる会を目指して活動しており、今後も交流の輪を広げていきたいと思います。若手会員の参加をお待ちしています。

このたびの創立70周年を新たな契機として、大橋会長の下、魅力ある横浜立教会が益々発展されますよう祈念するとともに、青年部会として発展に寄与してまいりたいと思います。



コロナを越えて

歓喜の歌

第2回泉区・第九フェスティバル2021

10月3日(日)13時泉公会堂



指揮 高橋勇太 演奏「東京ピットオーケストラ」

Soloist シラフ / 沢崎恵美 メハシラ / 河野めぐみ テノール中鉢 聰 バリトン牧野正人

区民合唱団140名 泉区・第九フェスティバル実行委員会

実行委員長 上原 敏博 昭和42年経済学部経済学課卒業

おめでとう！

横浜立教会創立70周年

横浜立教会 副会長
横浜泉ロータリークラブ会長
泉区中田連合自治会 会長

日本の働くお母さんを元気にしたい！！

家の負担を減らすことで忙しいあなたを応援します。

コインランドリーマンマチャオ横浜岡津町店 神奈川県横浜市泉区岡津町 242-1

コインランドリーマンマチャオ鶴ヶ峰店 神奈川県横浜市旭区鶴ヶ峰本庁 2-2-1

清潔で明るい店内、女性のお客様にも好評!!
おふとんなど、まとめ洗いOKで驚きの速さ!
コインランドリーマンマチャオ



立教大学體育會應援團 第54代團長

昭和61年経営学科卒 堀内 毅士

祝 横浜立教会 70 周年



アトリエ K

ハンドメイドを集めた可愛いお店

アクセサリー・バッグ・小物雑貨がいっぱい



東横線、妙蓮寺駅より徒歩 1 分。ニコニコ商店街

住所：横浜市港北区菊名 1-4-7

月・木・金・土曜日 10:30~16:30

オーナー：飯塚美栄子（1964 年英米文卒） 店長：長嶋美喜 090-8944-0719

木澤・川添法律事務所 弁護士 川添利賢



昭和49年法学部卒業
TEL 03-5226-9810
FAX 03-5226-9811
Email kawazoe@rikkyo.ac.jp

第二東京弁護士会所属
学校法人立教学院顧問弁護士
取扱事件

民事一般・労働・行政
企業法務・相続・離婚

依頼者の大半が立教大学校友です。

祝 横浜立教会創立 70 周年



ホテルニューグランド

常務取締役
総支配人 青木 宏一郎 (S61 経営卒)

〒231-8520 横浜市中区山下町 10 番地
TEL 045-681-1841 FAX 045-681-1895
<http://www.hotel-newgrand.co.jp>

 MINATO PUMP
港ポンプ工業株式会社

代表取締役社長
鈴木 紀子



〒221-0045
神奈川県横浜市神奈川区神奈川2-5-10
045-441-7835 FAX 045-441-6522
noriko@minatopump.co.jp <https://minatopump.co.jp/>

平成 4 年文学部英米文学科卒



主な事業内容

直結増圧給水ポンプ更新・修理
揚水ポンプ設置・交換・修理
冷温水ポンプ設置・交換・修理
貯水槽の清掃

給水加圧ポンプ設置・交換・修理
排水ポンプ設置・交換・修理
井戸ポンプのさく井から設置まで
メンテナス管理・点検

横浜立教会 創立 70 周年
おめでとうございます！



横浜で創業 90 年
酒の島崎は
横浜立教会を応援します

島崎株式会社



横浜市神奈川区台町 11-19

電話 : 045(311)9861

HP : <https://sake-shimazaki.com/>

代表取締役 島崎尚己 1986 法学部卒

取締役 島崎圭司 1988 社会学部卒

横浜立教会 70 周年 おめでとうございます

木村 欣照

昭和 44 年 社会学部社会学科卒 (横浜立教会会計幹事)

携帯 : 080-3422-4432

e-mail : kmr-06@55.catv-yokohama.ne.jp

楠本 健司

昭和 44 年 社会学部産業関係学科卒 (横浜立教会副会長)

携帯 : 090-8058-5397

e-mail : kusu7ken@ezweb.ne.jp



昭和46年文学部フランス文学科卒業

渋谷正道の詩集のご案内

☆ 「花譜」

著者名 更北四郎 (さらきた しろう)
出版社 東方社 (販売代理店:明徳出版社)
定価 2,500円(税別)
発行 2017年12月
跋文 立教大学名誉教授
山本顕一氏

☆ 「春 一御歳六十九歳のわが誕生日」

著者名 更北四郎 (さらきた しろう)
出版社 東方社 (販売代理店:明徳出版社)
定価 2,500円(税別)
発行 2019年5月
跋文 立教大学同級生
大津哲夫氏

Healthy Active Life スマートクラブ

栄養8割・運動2割 真の健康をサポートします!



ウェルネスコーチ 絹谷みどり (S52年カリ教卒)

お問合せ先 **090-1816-3158**

横浜市鶴見区岸谷4-16-3
E-mail:midorikinuya0526@gmail.com

Herbalife Nutrition Independent Member #3094488



神奈川県知事 許可(般-29)第 84060 号

■ 祝 横浜立教会70周年 ■

小さな補修から 総合リフォーム
増改築まで

有限
会社 今村塗装工業

専務取締役 今村 創太 昭和59年 社会学部 社会学科卒

〒240-0034 横浜市保土ヶ谷区境木町88-59

TEL: (045) 353-0695 FAX: (045) 353-2676 E-mail:kolohe@eu.ejnet.ne.jp

祝 横浜立教会 70周年

星 淳一 昭和62年 経済学部 経営学科卒
(横浜立教会副幹事長)
立教大学体育会応援団監督

星通商株式会社 代表取締役

横浜市中区曙町5-63-10
TEL:045-251-3864 携帯:090-3144-3169
e-mail:hoshi@d4.dion.ne.jp



祝 横浜立教会 70周年

(順不同)

本田 勝彦

昭和 40 年 法学部法学科卒
(横浜立教会副幹事長)

〒240-0015

横浜市保土ヶ谷区岩崎町

TEL : 045-341-7419

携帯 : 090-3806-6036

e-mail:goku1942_katu_04@yahoo.co.jp

与儀 達夫

昭和 43 年 文学部史学科卒
(横浜立教会会計監査)

横浜市南区六ツ川

TEL : 045-742-5390

携帯 : 090-7260-1519

e-mail:ty.flit-paul-7187@krf.biglobe.ne.jp

竹内 豊

昭和 48 年 経済学部経済学科卒
(横浜立教会幹事)

横浜市都筑区茅ヶ崎南

携帯 : 080-5073-0728

e-mail:y-takeuchi787@nifty.com

田邊 惠介

昭和 48 年 社会学部産業関係学科卒

株式会社 田邊 代表取締役

横浜市中区吉田町 10 番地 都南ビル 3 階

TEL : 045-251-0852

e-mail:tanabe@ceres-jp.com

矢島 和代

昭和 48 年 社会学部社会学科卒
(横浜立教会会計監査)

行政書士矢島和代事務所 行政書士

清治 善光

昭和 62 年 経済学部経営学科卒
(横浜立教会幹事)

株式会社ヴィフィンテリア

横浜市神奈川区二ツ谷町 3 番地

TEL:045-321-5322 携帯電話 : 090-2654-5806

e-mail:seiji3yoshi3@gmail.com

飯島 清仁

平成 2 年 法学部法学科卒 (横浜立教会幹事)

株式会社テンポアップ

専務執行役員 副都心グループ統括

東京都渋谷区東 1-27-1 財日ビル 4 階

TEL : 03-6427-7050

携帯 : 080-1264-6787

e-mail:k.iijima@tempoup.jp

角 英明

平成 13 年 経済学部経営理学科卒
(横浜立教会青年部幹事 事務局)

アクサ生命保険株式会社

シニア フィナンシャル アドバイザー

〒105-0001 東京都港区虎ノ門-3-17-1

TOKYU REIT 虎ノ門ビル 4 階

TEL : 03-5733-6615 携帯 : 080-3203-9911

e-mail:hideaki.kado@axa.co.jp

祝 横浜立教会 70周年

藤井 謙宗

平成元年 経済学部経済学科卒
株式会社横浜スタジアム
代表取締役社長

泉 路代

平成4年 法学部法学科卒
新横浜法律事務所 弁護士
〒222-0033 横浜市港北区新横浜3-18-3
新横浜KSビル4階
TEL:045-477-5821

孫 進明

平成7年 経済学部経済学科卒
(横浜立教会副幹事長)
有限会社横浜サン商事 代表取締役
〒231-0007 横浜市中区弁天通2-29
TEL:045-671-1522
携帯:090-1606-5910
e-mail:shinmei@queen-merry.com

丁 紹奈

平成21年 法学部法学科卒
よこはま第一法律事務所 弁護士
〒231-0013 横浜市中区住吉町1丁目2番地スカーフ会館5階
TEL:045-228-2088 FAX:045-228-2055
<http://www.yokohama1st-law.com>
e-mail:tei@yokohama1st-law.com

土元 幸一郎

平成2年 経済学部経済学科卒
そごう横浜店 株式会社そごう・西武
お得意様部 お得意様四課
〒220-8510 横浜市西区高島2-18-1
TEL:045-465-5948
FAX:045-465-5927

小林 忠弘

平成6年 経済学部経済学科卒
横浜銀行 和泉支店 支店長
〒245-0023 横浜市泉区和泉中央南2-23-14
TEL:045-803-1711 FAX:045-801-6775
携帯:090-3806-6036
e-mail:tadahiro_kobayashi@hamagin.co.jp
<https://www.boy.co.jp>

菊池 広明

平成22年 法学部政治学科卒
菊池司法書士事務所 司法書士
〒235-0005 横浜市磯子区東町15番32号
モンビル横浜根岸406
TEL:045-353-5374 携帯:090-6192-9818
e-mail:kikuchi@kikuchi-legal.com
松田宏一郎先生、吉岡知哉先生のゼミでした。相続、遺言、財産管理、会社法務等お困りごとがございましたら、お気軽にご相談ください。

鈴木 諒子

平成22年 経済学部・会計ファイナンス学科卒
(横浜立教会会計幹事)
野村証券株式会社 アソシエイト
東京都千代田区大手町2-1-1
TEL:03-3211-1811
e-mail:ryoko.puuusuke@gmail.com

祝創立70周年 横浜立教会

日本聖公会横浜教区

横浜聖アンデレ教会 牧師 司祭 渡部 明央



〒221-0852 横浜市神奈川区三ツ沢下町 14-57
電話 045-321-4989

横浜山手聖公会 牧師 司祭 竹内 一也



〒231-0862 横浜市中区山手町 235
電話 045-622-0228

横浜聖クリストファー教会 牧師 司祭 河崎 望



〒245-0004 横浜市泉区領家 3-13-7
電話 045-812-7919

社会福祉法人 聖ヒルダ会 ベタニヤ・ホーム（軽費老人ホーム）



理事長 司祭 相澤 牧人
〒245-0062 横浜市戸塚区汲沢町 1060
電話 045-864-5933

協賛者

山崎 剛司祭 (S34・英米)
森田 利光 (S34・英米)
青木 端恵 (S34・英米)
尾崎 茂雄 (S35・経営)
長屋 晋 (S37・英米)
小川 紀子 (S38・英米)
早野 勝徳 (S38・心理)
関谷 兼子 (S42・仏文)
近藤 順子 (S42・心理)
永井 弘子 (S42・英米)
近藤 富士夫 (S44・経済)
近藤 悅子 (S47・史学)
森山 徹太郎 (S49・経済)
新倉 久乃 (S58法・H29比前)
館野 裕之 (S58・経済)
染谷 孝章 (H元・法)

神奈川県知事(7)第20053号
(公社)全国宅地建物取引業保証協会会員
(公社)神奈川県宅地建物取引業協会会員

■祝 横浜立教会70周年■

不動産のことならなんでもご相談ください
相談無料 セカンドオピニオン歓迎

有限会社 恵幸 KEIKOU

代表取締役 中山 裕 昭和62年 法学部 法学科卒

〒252-0312 相模原市南区相南四丁目11番5号 MAP相南105

TEL: (042) 741-9393 FAX: (042) 741-3420 E-mail: nakayama777@ac.auone-net.jp

*編集後記

新型コロナウイルスによる感染拡大が広がる中、昨年に続き今年もホテルニューグランドで予定していた「70周年の集い」は中止せざるを得なくなりました。クリスマス会も中止し、クラブ活動もままならない中、記念誌は何とか発行しようと楠本幹事を中心に編集会議を重ねてきました。それだけに皆さんにこうしてお届けできたことに一同ほっとしています。ご寄稿いただいた方々また広告掲載にご協力をいただいた方々に心から感謝します。素人のレイアウト編集の記念誌ですが、次の記念誌につながれば幸いです。

また、70周年に際しご寄付を頂いた、大橋英五会長及び飯塚美恵子様にお礼を申し上げます。

さて、コロナ禍が続く中、会の活動も見直しが求められています。一同に会することが難しい中で交流や親睦をはかるためには、HPの活用、会報による情報提供、SNSの活用等々についてこの先検討を進めることが必要です。皆さんのご協力をぜひお願いします。2024年の大学創立150周年にあわせて、「75周年の集い」を考えています。それまでに会の活動を充実させ、会員を更に拡大して、盛大に開催を迎えるものです。 (上原敏博、楠本健司、木村欣照)

なぜ今 祝 横浜立教会 70周年 「学生マンション」なのか?

毎日コムネット学生専用マンションの優位性



市場性

- 少子化にあっても大学生者数は過去最高水準を維持しており、大学生市場は非常に安定的な市場といえます。その中で、ひとり暮らしの「安全性」を求める声は増加の一途。学生専用マンションの需要はますます高まっています。

安定性

- 不動産オーナーのリスクと負担を軽減させるため、長期間の「一括借上方式（サブリース）契約」を採用。
- 事業性を最優先に、企画から運営・管理までトータルにサポート。

社会性

- 安心して暮らせる「部屋」を提供する事業のため、全国で379校を超える大学（短大・専門学校等）と提携協力しています。
- 学生たちが勉学・研究活動に取り組む環境づくりの一端を担います。

まずはご相談ください

- 保有地の有効活用を考えたい。
- 企業へ一括貸している社員寮が、そろそろ満期を迎える。
- 利用率の下がった社員寮を有効活用したい。

 **毎日コムネット**

代表取締役社長 伊藤 守
(昭49年/観光卒)

〒100-0004

東京都千代田区大手町2-1-1 大手町野村ビル15階

ホームページ <https://www.maicom.co.jp>



お問合せ先

不動産ソリューション事業部

TEL.

03-3548-2220

FAX.

03-3548-2185